

ID No.	2012
研究課題名	腹膜偽粘液腫の分子病態解析
研究代表者	河村 由紀 (国立国際医療研究センター研究所・室長)
研究組織 受入教員 研究分担者	古川 洋一 (東京大学医科学研究所・教授)
<p>研究報告</p> <p>当センターの外科で手術が行われた腹膜偽粘液腫切除標本の一部の凍結組織から、東大医科学研にてマイクロダイセクションを行い DNA/RNA を抽出した。我々は抽出された DNA を用いて、メチル化 CpG 結合タンパク質(MBD2)による免疫沈降(MeDIP)を実施した。次に MeDIP により得られた DNA からライブラリーを作製し、次世代シーケンサーにより網羅的解析(MeDIP-seq)を行った。医科研では、共同研究者らが RNA-seq によるトランスクリプトーム解析を施行した。クラスター解析を行った結果、腫瘍と正常大腸粘膜組織が正しく別々のクラスターに分類された。また腫瘍組織で発現が有意に上昇する遺伝子は 2569 個同定された。これらの遺伝子群を用いて Gene Set Enrichment Analysis によるパスウェイ解析を実施したところ、ECM-receptor interaction, Cytokine, Protein digestion and absorption, Focal adhesion が上位を占めた。これらの遺伝子発現プロファイルと我々のメチローム解析結果とバイオインフォマティック統合解析を行っている途中であり、腹膜偽粘液腫の発症・進展や、悪性度に関連する遺伝子発現の変化とその発現異常のメカニズムが明らかになるものと期待される。</p>	